



題字…今山政三郎氏

発行所
新潟県小学校長会広報部
新潟市中央区万代1-3-30
万代シティホテルビル3階
TEL 025-290-2231
FAX 025-245-6060
E-mail: nkskgo@niigata-net.or.jp
印刷所 株式会社 文久堂



育ちの「間」を信じて

新潟県小学校長会 副会長

荻野 真美

校内を回っていて、ふと足を止める瞬間があります。学びに向かう子どもたちの真剣なまなざしや活気ある声に出会った時、情熱をもって子どもたちに向き合う教職員の姿を目にした時などです。一つ一つの場面に、学校がもつ独自の熱量と愛おしさを感じます。

学校経営の舵取りを担う校長は、日々多くの判断に迫られています。より良い環境を整え、子どもや教職員の成長を促したいという思いから、手や言葉を差し伸べたくなる場面もあります。校長として、教え導きたいという意識が膨らむのは当然のことです。

しかし最近、あえて手出しをしない時間、すなわち「間」を保障することの大切さを改めて感じています。植物の芽が土を押し分けて出てくる時、無理に引っ張り上げても根は育ちません。子どもが自ら納得や発見に至るまでの時間、教職員がより良い実践を目指して模索し葛藤する時間。その目に見えない「間」の中にこそ、深い

思考と自立への根が静かに伸びていくのだと思います。

もちろん、放置するということではありません。校長としてのビジョンと策を示す一方で、いつでも受け止められるよう、温かく見守りながら、待つ。この姿勢をもつことも校長に求められる大切なリーダーシップの形だと考えます。

これは学校経営においても同様です。目指す学校の姿は一朝一夕に完成するものではありません。教職員とともに歩みを進める中で生まれる「間」を大切にし、じっくりと育てていくことこそが、揺るぎない学校の土台をつくると感じています。

予測困難と言われる時代だからこそ、自ら育とうとする子どもと教職員の可能性、そして学校の豊かな未来を信じ、その「間」を温かく育み見守る存在でありたいものです。

(新潟 小針小学校)

令和八年度

第一回 県小評議員会 (報告)

日時 六月十六日(火) 十四時～十六時十五分
会場 各学校等(オンライン)

一 開会の挨拶

藤本会長

本会の意義や価値の共有は魅力ある学校づくりにつながる。私たちは夢を語り合い、ともに未来を描きたい。校長こそ元気に、希望をもって学校経営に当たりたい。「一人でみる夢はただの夢。しかし、みんなでみる夢は現実になる」を心に取り組んでまいりましょう。

二 議長選出

村上・岩船 評議員

三 報告

会務報告、全連小関係、関ブロ関係

四 協議

(一) 各部事業計画について

1 対策部

各校や市町村・政令指定都市小学校長会の運営に資するため、「市町村における教育関連予算等に関する調査研究」を行い、対策活動の参考となる資料を提供する。

2 福利部

教職員の給与水準等の維持向上やライフプランニングのための要望活動に資するため、「校長の給与実態」「退職後の勤務状況や再就職状況」「校長退職後を見据えた意識」等の調査研究活動を行う。

3 研修部

次期学習指導要領の理念を考察し、地域の信頼を得る創造的な学校経営の推進に資するため、教育課程・生徒指導・同和教育の三委員会による調査研究活動を行い、資料の提供や同和教育の推進に取り組む。

4 広報部

会員の連携と学校経営の改善・充実に資するため、「初等教育」「校長会報」等を発行し、市町村・政令指定都市小学校長会の活動等に関する情報の提供を行う。

(二) 令和八年度「要望書」について

五 連絡

令和九年度代議員会

期日 令和九年五月七日(金)

主管 燕市・西蒲原郡小学校長会

六 閉会の挨拶

荻野副会長

季節の移ろいとともに教育活動が順調に動き出した。本会の意義や価値を共有しながら事業を進めたい。受け身ではなく、「自分事」として取り組むことが、魅力ある学校づくりにつながり、何より子どもたちの笑顔につながる。

(広報部副部長)

関東甲信越地区小学校長研究協議会・山梨大会 提案発表

期日 六月十一日(木)～十二日(金)
会場 甲府市(ベルクラシック甲府他)

十日町市立松之山小学校

南魚沼市立城内小学校

一 研究主題

学校づくりを確かにする学校評価の工夫

SWOT分析を生かした学校経営の改善と地域とともに歩む学校づくり

二 研究の概要

(一) 研究のねらい

本研究は、小規模校における学校評価をより確かなものにするため、その補完としてSWOT分析を導入し、学校の現状や課題を客観的・構造的に把握するとともに、学校経営の改善につなげる有効性を検証することを目的とした。

(二) 研究内容

学校評価にSWOT分析を位置付け、学校の強み・弱み・機会・脅威を整理した。分析では、小中一貫教育による九年間の体系的な学びや地域資源を生かした探究活動などを強みとし、少数数体制による校務負担や学校評価数値の変動の大きさ、情報発信の弱さなどを弱みとして整理した。また、教育移住への関心の高まりやICTの活用などを機会とし、少子化や地域の担い手の減少などを脅威として捉えた。さらに、クロス分析を行い、探究学

習の充実、校内支援体制の強化、特色ある教育活動の発信、学校運営の効率化を重点課題として明確にした。SWOT分析により学校経営の中長期的な方向性を整理し、従来の学校評価による数値データと補完的に活用することで、多面的な視点から学校改善を進める仕組みを構築した。これにより、学校評価は、学校経営方針を決める判断材料として機能するようになった。

三 成果と課題

SWOT分析の導入により、学校の強みや弱みなどについて教職員の共通理解が深まり、学校経営と学校評価を関連付けた改善サイクルが機能するようになった。また、分析結果を地域と共有したことで協働意識が高まり、地域とともに歩む学校づくりの推進につながった。

一方、特別な支援を要する児童への組織的な対応や、学校の特色・成果を積極的に発信する体制づくりは今後の課題である。地域や保護者と目指す学校像を共有し、持続可能な協働体制を維持・発展させながら、学校評価を学校経営の改善へ一層生かしていく必要がある。

一 研究主題

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

地域と共にある学校づくりの取組

二 研究の概要

令和五年、南魚沼市は全小中学校でコミュニティ・スクール(以下CS)を導入した。これまでの地域連携の取組をどのようにCSにつなぎ、学校の強み、地域の強みを生かし、課題解決に向けた取組ができるのか実践する。

学校・地域の実情に応じて四つのタイプを決め実践する。①特色ある教育活動タイプ、②学校評価タイプ、③教育活動タイプ、④安心・安全タイプ。

(一) 城内小学校教育活動タイプ

「地域の明日を語る会」の開催

六年児童と保護者、学校運営協議会委員、地域の方々が十年後の地域について語り合う。地域のよさ・課題・自分にできることを語り合う。子どもたちの提言を協働活動に反映させるようにした。地域づくり協議会では、行事の見直しを行い、参加者が増加し、地域活性化につながった。

(二) 五十沢小学校 特色ある教育活動タイプ
地域と学校を結ぶ地域連携教室の開設

学校内の一面に「ふらっとルーム」を設置した。毎週火・木曜日に地域の方に開放し、誰でも訪れることができる。子どもたちは休憩時間に地域の方と日常的に交流し、優しい思いやりのある言動が見られた。

(三) おおまき小学校 教育活動タイプ

学校支援ボランティアの拡充
支援活動は、①学習支援、②環境整備、③登下校の安全確保、④学校行事の支援の四つに類される。多くの目で指導・支援に当たること、より安全で確実な技能の習得に結び付けることができた。

三 成果と課題

(一) 学校運営協議会での熟議や「地域の明日を語る会」の開催によって、学校の課題や児童の要望が明らかとなり、多様な主体による地域学校協働活動の充実を図ることができた。

(二) 大々的な活動でなくても、地域の方が日常的に学校に出入りすることで、様々な人に触れ、ふるさにと対する思い出や愛情が増えた。

(三) 今後、中学校区の小・中学校との連携・協働体制を構築していくことが重要である。

市
都
市
指
定
令
郡
政
だ多様な研修で校長としての
資質・能力の向上に努める

村上市岩船郡小学校長会

村上市岩船郡小学校長会は、村上市十三校、岩船郡二校の計十五校の校長で構成しています。最も離れている学校間で約五十六キロに及び、離島の学校も含め広範囲に位置しています。

本稿では、一体となって取り組む研修活動について紹介します。

一 会員相互で学び合う研修

研修の二本柱が、学校経営の様々なテーマについて学び合う「テーマ研修」と、特色ある教育施設等を訪問して学び合う「訪問研修・地域学習」です。

今年度第一回目の七月は「人材育成」をテーマに実施しました。広範囲に立地する当会の特性を考慮し、参集せずにオンラインでつながり、Google Workspaceを活用した研修に挑戦しました。教職員支援機構（NITS）の研修動画「教職員が育つ学校づくり」校内OJTの考え方と進め方」を視聴した後に、グループ協議、全体共有へと移行しました。協議では共同編集機能を使い意見を可視化したことで、画面越しでも深まりのある対話が実現できました。研修後には成果物としてスライドを共有し、各校の学校経営へと還元できるようにしました。

今後の研修として、「生徒指導」や

「地域連携」に関する講演、郡市小教

研・県小教研の「研究指定校の実践紹介」、水害防災を学ぶ「荒川頭首工見学」などを予定しています。さらに「学校運営」の研修では、会員による調理実習と会食を行います。これは共同作業を通して教職員の関係性を良好にし円滑な学校運営を行うためのアプローチを、校長自身が体験的に学ぶ趣旨です。学び合いを第一目的としつつ、会員間の親睦も深め合える内容となっています。

二 中学校長会との合同研修

年に二回、中学校長会と合同で「学校管理運営研修」と「喫緊の教育課題に関する研修」を下越教育事務所学校支援第一課長や外部講師を招いて行っています。「喫緊の教育課題に関する研修」では昨年度に引き続き、児童生徒の発達支援施設の管理者から特別支援教育について実践的に学びます。

中学校長会と合同で行うことで、地域の現状について情報共有しながら課題意識を共通にもち、学校運営に当たることができています。

今後このような多様な研修を通して、校長としての資質・能力向上に努めてまいります。

学校紹介

深沢小よいとこ、宝箱！

長岡市立深沢小学校

若葉の時、稲穂の時期、積雪時：：と季節によって色彩の異なる平らかな田園が広がる坂の上にある創立百五十周年目の深沢小学校。保護者・地域は、子どもたちを地域の宝と称し、協力を惜しまない。様々な意味で恵まれた学区である。

一 温かい人間関係の中で

午前十時。二時限目の真っ最中の校舎は体育の授業がない限り、一階は静かな空間である。二階三階の各教室では、発言のために挙手をする子、集中して聴く子、話し合うために集まる子など落ち着いた雰囲気の中でも熱い思い満載の学習活動が行われている。一部複式の五学級、全校児童二十八名の日常である。

児童会活動を中心に休み時間の体育館の使い方を自治的に考え話し合い、全校遊びを取り入れ、遊びの中でも言葉を考え思いを伝え合い、互いの良さに目を向ける。一つ一つの積み重ねにより、人との関わりを日々学んでいる。

二 魅力ある教育素材の中で

学区は、国営越後丘陵公園の里山ゾーンや長岡技術科学大学と隣接している。里山ゾーンの自然の中での体験活動を

通して、子どもたちの学びが深まる。

長岡技術科学大学とは、毎年の主となる活動を中心に連携させてもらい、義務教育では得難い規模のダイナミックな学びを全校児童で実感できる。その他にも無形文化財指定「巫女翁」をはじめ、いにしえには長岡藩主も山頂からの眺めを楽しみ、山本五十六自筆による「愛郷の碑」も建立される御殿山、歴史ある深澤神社、今もなお残る手掘りの防空壕、各種寺院、白鳥の飛来地等、教育素材にあふれている。何をいかに組み込み、学びを深めていくか賛否な悩みとなるほどである。

「居心地の良い」そんな言葉がよく似合う、教育素材が豊富な学区と、穏やかで素直な子どもたち。日々積み重ねてきている当たり前の日常を守り、より力を付けるために、一人一人の子どもをよくみて、今後も真摯に教育活動を行いたい。

県小学校長会
HPへアクセス学校経営に役立つ
情報満載